

令和3年度

「ふるさとと学習」

実践事例集



令和4年5月

廿日市市教育委員会

令和3年度 「ふるさと学習」 実践事例集

目 次

〈学校名等〉		学年	〈単元名〉	〈ページ〉
1	廿日市小学校	5	「食べ物を調べよう」～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～	1
2	平良小学校	4	はつかいち もくもく調査隊～廿日市市のすばらしさを伝えよう～	2
3	原小学校	3	原のくらしからまなぼう～お世話になった人に感謝の気持ちを伝えよう～	3
4	宮内小学校	3	宮内ってすてき！～宮内のよさを発信しよう～	4
5	地御前小学校	6	「地御前のよさ（歴史）を発信しよう」	5
6	佐方小学校	5	「米大好き大作戦」	6
7	阿品台東小学校	6	「ずっと住み続けたい阿品台に！」～阿品台ピフォーアフタープロジェクト～	7
8	阿品台西小学校	3	「阿西小のすてき」～学校のすてきなところを見つけよう～	8
9	金剛寺小学校	4	串戸の福祉～串戸のまちづくりをしよう！～	9
10	宮園小学校	3	「ぼくらのピオトープ～地域の自然とそれを守る人々～	10
		6	宮園の未来のために～宮園に住む私達からの提案～	11
11	四季が丘小学校	6	「四季が丘未来づくりプロジェクト」～ふるさとのために自分たちができること～	12
12	友和小学校	5	「ふるさとを元気にしようプロジェクト」～ふるさと未来かがやき隊～	13
13	津田小学校	4	環境と伝統文化「津田調査隊」～地域に伝わる文化～	14
14	吉和小・中学校	小3～中3	SDGsの視点から吉和の未来を考える～持続可能な吉和地域にするために～	15
15	大野東小学校	2	みんなでつかう まちのしせつ つたわる 広がる わたしの生活	16
		3	大野のすてきを見つけよう	17
		4	災害を調べよう・災害に備えよう	18
		5	大野の特産物を宣伝し隊！！	19
		6	「大野の今を見直そう」	20
16	大野西小学校	4	「大野のステキを見つけよう」～大野の自然を守る人から探ろう～	21
17	宮島小・中学校	小5、中1	宮島の海や生き物を守るために、私たちになにができるだろうか	22
18	廿日市中学校	1	「SDGs」で廿日市を考えよう	23
19	七尾中学校	2	廿日市の未来を考える	24
20	阿品台中学校	2	「阿品・阿品台の魅力について」～ふるさとの魅力をダンスで伝えよう～	25
21	野坂中学校	1	廿日市市について探ろう「廿日市市地域活性化プロジェクト」	26
22	四季が丘中学校	1	廿日市市を知ろう！～周辺地域との比較～	27
23	佐伯中学校	1	自分を知る～地域学習（佐伯を知る）～	28
24	大野中学校	3	大野元氣プロジェクト～地域に貢献しよう～大野の未来を考える	29
25	大野東中学校	2	地域とつながる「大野を伝えよう」『ASAKO プロジェクト』	30
26	廿日市市教育委員会		令和3年度「ふるさと学習」に係る取組	31

単元名

「食べ物を調べよう」 ～地産地消の オリジナル弁当を作ろう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

- ・廿日市産の食材・伝統料理を調べ、オリジナル弁当を考える活動を通して、郷土の良さを再確認する。また、課題解決に主体的に取り組み、協力して課題の解決を行う力を育成する。
- ・キャリア教育の視点から、オリジナル弁当販売体験を通して、働くことの価値を考えていく。
- ・自分たちの活動のまとめとして、発表会を開き表現する力を高める。

【連携諸機関・人物】

J A 佐伯中央	久保りか様
阿品台西小学校	渡田晴香栄養教諭
平良小学校	吉山由衣栄養教諭
株式会社 A & C	木本雄太様
はつかいち観光協会	平野雄大様
廿日市市役所	安業智聡様

活動の概要

日本の農業の課題を学習し、自分たちに出来る取り組みとして、『地産地消のオリジナル弁当を作ろう』という課題を設定した。廿日市特産の食物や廿日市の良さについて情報収集し、弁当作りや販売に向けて具体的な計画を立てた。実際には、廿日市の食材を使ったレシピ作りを行い、A & Cさんに弁当の製造を依頼した。そして、児童が廿日市の良さをアピールするパンフレット、包装紙を作り、弁当の宣伝、学校での販売を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入段階で、社会科の「わたしたちの食生活と食料生産」の学習と関連づけ、J Aの方からお話を伺いながらバケツ稲を実際に育てることで、児童の興味関心を高めた。
- ・新たな課題設定で、廿日市観光協会から「けん玉100周年」を祝うお弁当の作成依頼があったことを伝えたことで、児童が廿日市の良さや食材について意欲的に調べ、廿日市の良さをたくさんの人に知ってもらいたいと、主体的に活動に取り組んだ。
- ・ゲストティチャー（けん玉砂原先生・栄養士さん・A & Cさん）を招聘し、お話を伺うことで、働くことの意味や価値を考えたり、物事を多角的に考えたりする機会を設定した。
- ・自分の調べたことを整理分析し、新聞やパンフレットにまとめる際は、国語科で「新聞記事を読み比べよう」の学習と関連付け、意図が伝わる見出しの付け方や写真の活用法を考えさせた。
- ・お弁当のレシピの作成では、家庭科「食生活を見直そう」の活動と関連づけ、栄養バランスの取れた食事について考えさせた。
- ・児童が、主体的に計画・実行できるように、お弁当作成を7つの食材グループに分け、活動を行った。
- ・お弁当で表現した地域の良さやレシピを、タブレットを活用し、各班でスライドにまとめてmeetで発表会を行い、児童の表現力を育成した。
- ・お弁当を多く売るための方法を児童に考えさせ、計画、実行し、問題解決能力の育成を図った。
- ・自分たちで考えたお弁当の販売を学校で行い、児童の達成感や満足感を高めた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 廿日市校区の良さを再確認し、料理という形に表現することで、郷土に対する愛着が深まった。
- バケツ稲を育てたり、稲について新聞を書いたりしたことで、自分たちの食生活を振り返り、「感謝して食べる」、「残さないように食べる」など、食材を作る人、調理をする人の気持ちを考える児童が増えた。また、日本の文化に米が深く関わっていることに気づき、米食文化を守っていくことの必要性について考えを深めることができた
- 地産地消への意識の高まりなど、活動を通して得たことを、児童が日常生活に生かそうとする姿勢が見られた。
- 販売に向けた企業との連携により、生産者の苦勞や工夫に気づき、働くことの意味について考えることができた。
- お弁当のレシピや廿日市の良さをスライドにまとめたことで、情報活用能力が伸びた。
- ◇地産地消のレシピを作り、企業や市役所と連携してお弁当を販売したことで、けん玉百周年をPRし、廿日市の良さを地域に知らせることが出来たと思う。コロナ禍で実施できなかった、自分たちによるお弁当作りも来年度は行いたい。

単元名

はつかいち もくもく調査隊

～廿日市市のすばらしさを伝えよう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちで調べた廿日市市と木材の関係や歴史などについて、課題を自ら設定し、課題解決に向けて主体的に活動する態度を育てるとともに、地域の一員として行動しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・市役所
(教育委員会・シティープロモーション室)

活動の概要

前学年の総合的な学習の時間でまとめたことを想起しながら、「なぜ廿日市市は木の町と言われているのか」という課題設定をした。そこから、宮島細工や木材港、けん玉などの廿日市とつながりの深い木材についてテーマを設定した。それぞれのテーマについて調べたことをパワーポイントにまとめ学級で交流した。さらに、解決できなかった疑問を解決するために、ゲストティーチャーに話を聞いた。そして、廿日市市街の人に廿日市市の良さを伝えるためにリーフレットを作成した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

・調べたことをパワーポイントにまとめることで、グループごとに廿日市市の良さを効果的に伝えるための工夫を考えることができた。

・図画工作科で学習した「飛び出すカード」を活用して、「飛び出すリーフレット」を作成した。そうすることで、見る人が興味を持って廿日市の良さを伝えるために効果的なリーフレットの作成ができた。



〈児童が作成したリーフレット〉



・ゲストティーチャーの話を聞くことで、廿日市市には森林が多いことや木材港の歴史などを知ることができ、「なぜ廿日市市が木の町と言われているのか」という学習課題に迫ることができた。また、森林が豊かな海を作るという話を聞くことで、廿日市市は豊かな海に面しており、ふる里を大切にしたいという思いにつなげることができた。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- ◇豊かな森林を守るためには、プラスチックの製品より積極的に木材の製品を使っていきたいと思った。
- ◇廿日市市は森林の占める割合が85%もあり、木材を扱う会社が多くあるので、私たちの生活と木材はとても関係が深いということが分かった。
- ◇「木の町廿日市」の学習を通して、森林などの環境を大切にすることが持続可能な未来へとつながるので、SDGsの考え方を大切にしたいと思った。

単元名

原のくらしからまなぼう

～お世話になった人に感謝の気持ちを伝えよう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

- ・お米について、観察したり調べたりする活動を通して、自ら課題を発見し、興味を持ったことを追求する。
- ・稲刈りなどの体験活動を通して、地域のお米を育てている人の苦労や願いを知り、地域に愛着を持ち、自分達にできることを考える。
- ・1学期から学習してきたことをもとに、地域で育ててきたお米や地域の方に再度目を向け、自分たちにできることを考えて実践する。

【連携諸機関・人物】

学習支援ボランティア（地域の方）

活動の概要

お米について家族や地域の人にインタビューしたり、本やタブレットなどを使って調べ学習を行ったりして情報を収集した。地域の方の田んぼを借りて、米作りに挑戦した。田植え、ひえ引き、稲刈り、脱穀、精米など地域の方と一緒に様々な活動を行った。その活動を通して、普段何気なく食べていたお米についての見方や考え方が変容した。お米を大切に育てている地域の方が地域（ふるさと）を大切に思い、これからも地域を活性化させたいという思いがあることを知り、自分たちもふるさと原のためにできることはないかと考えるようになった。お世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、お米を販売し、その売り上げで感謝の品をプレゼントしたいと考え、その販売方法を考え、主体的・協働的に取り組んだ。積極的にふるさとに参画しようとする態度が芽生えた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

・地域の方の協力がとても厚く、子ども達がたくさんの体験をすることができた。

・「地域の方に感謝の気持ちを伝えたい」という思いをどうすれば実現できるのか、何度も話し合いを重ねた。「感謝のお花を贈りたい。だけど自分達にお金はない。」「やっぱり無理か。」とあきらめかけていた時、ある児童が、「自分たちが作ったお米を売ればいいじゃん！売ったお金でお花を買おう！」と叫んだ。新たな課題を発見し、学習を深化させることになる契機となった。いつ、どこ



で、誰に売するのか考え、販売する場を自分たちで考えた。児童の生活経験が少ないことから、実際のスーパーで調べたり家族にインタビューしたりして、情報を収集し整理・分析した。全然見当がつかなかった販売価格やおコメの銘柄の案も提案することができた。コロナ禍でみんなが集まってる活動ができないという壁にも直面したが、タブレットを用いてオンラインで各自宅からmeet会議を設定し、改善するべき点を話し合った。第1弾の販売を終えた時点で再度計画を練り直し、第2弾では100キロ以上のお米を販売することができた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

○「感謝の気持ちを伝えるための花束を買いたい」という新たな課題のゴールに向かって、子ども達が協力して取り組んだ。困ったことがあったら家族や先生にインタビューしたり、タブレットを使って調べたりするなど、目標を達成するために主体的に課題解決しようとする姿が多く見られた。

◇自分たちが育てたお米をたくさんの人に食べてもらうことができ嬉しかった。原のお米を、原に住んでいない人にもっと知ってもらいたい。

単元名

宮内ってすてき！ ～宮内のよさを発信しよう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる町に関心を持ち、情報を集め、リーフレットを作る活動を通して、宮内の良さに気づき、地域に誇りと愛着をもとうとする。

【連携諸機関・人物】

・保護者

活動の概要

生活していて感じる宮内の良さについてを考え、「宮内のすてき・よさを伝えよう。」をテーマに、宮内を西コース、東コース、北コース・南コースに分け、探検し宮内のすてき・よさを情報収集した。そして、収集した情報を、自然・歴史・施設（お店）・交通の4つの観点に分けて宮内のよさを整理し、どのことについて伝えたいかを考えた。最後に、宮内のよさが伝わるよう、写真や絵を使いながらリーフレットにまとめ、参観日で保護者の方に向けて、宮内のよさを伝えた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態，教材等の工夫
- ・地域人材，財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等

- 4つのコースに分けて、宮内の町を広く探検した。
- 宮内のすてきベスト3を決めてから調べ学習を始めた。
- 国語科「外国のことをしょうかいしよう」の学習の中で、調べたことや自分の意見の伝え方について学んだことを生かした。
- 社会科「学校のまわり」の学習から、学校のまわりにあるものを出し合い宮内の良さに繋げた。
- 社会科「店ではたらく人」の学習では、宮内にはたくさんのスーパーマーケットがあるという良さに気付かせた。
- 社会科「働く人とわたしたちの暮らし」の学習で学んだことと、宮内にある施設を比較しながら調べた。



児童生徒の姿（○），振り返り（◇）

- 自分の知らない宮内の町を知って、新しい発見をすることができた。
- 調べたいという意欲を高めることができた。
- 効果的に意見を伝えるために写真や絵を使って説明することができた。
- 聞き手を意識した発表をしようとすることができた。
- ◇宮内は自然が豊かなことが分かった。
- ◇校外学習に行った時に、宮内には優しい人たちがたくさんいることが分かった。
- ◇宮内には歴史あるものが残されていることが分かった。
- ◇廿日市や宮内のことを深く知ることができた。
- ◇廿日市にはたくさんお店があって、便利な町だということが分かった。
- ◇校外学習をして、宮内の中で好きな場所ができた。

単元名

「地御前のよさ(歴史)を発信しよう」

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる地御前の史跡について調べ、地御前の歴史について理解を深めることで、一層ふるさと「地御前」のよさに気づき、ふるさとを大切にし、よさを伝えていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

・地域の方

活動の概要

保護者の方へのアンケートの結果から、地御前の歴史があまり知られていないことを知り、課題「地御前のよさ(歴史)を発信しよう」を設定した。地域の方々に協力していただき、史跡巡りを行ったり、テキストやインターネットを用いた調べ学習を行ったりした。また、知った内容を保護者に伝えるため、発表会を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等
- ・導入段階で自分たちの町にある史跡について知っていることを出し合ったり、保護者から話を聞いてきたりしたことで、児童の関心・意欲が高まった。
- ・計画を立てる段階から、児童が主体的に計画・実行できるように、興味・関心のあるグループを自ら選択できるようにした。
- ・実際に史跡をめぐり、地域の方々から説明を受け、児童自身が考えた質問をさせていただくことで、その後、児童が主体的に活動に取り組むことができた。地域の方々から説明を受けることで、今まで知らなかったことをたくさん収集し、自分たちの町の歴史の深さにふれることができ、伝えたいという気持ちが高まった。
- ・史跡巡りでは、タブレットを持参し、必要な写真や動画をとるようにしたことで、さらに興味をもって取り組むことができた。
- ・収集した情報を、保護者の方々に伝えるため、グループごとに発表方法を考えた。グループ同士で見合い、意見を交流することで、より一層意欲が高まり、よい発表を目指そうとする様子が見られた。また、発表の際には、タブレットも積極的に活用した。



児童生徒の姿 (○), 振り返り (◇)

- 自分たちが住む地御前には、歴史の深い史跡がたくさんあることに気付いた。また、その史跡は、多くの人々が大切にしたいという思いをもって、守ってきたものであることを知り、今度は自分たちがこれらの史跡を大切にし、色々な人に伝えていきたいという気持ちをもつことができた。
- 地御前のよさを伝えるために、様々な発表方法を考えることができた。聞き手に興味をもってもらえるよう、相手意識をもって活動していた。グループ活動にすることで、お互いの意見を尊重しながら、よりよいものを目指そうとする姿が見られた。

単元名

「米大好き大作戦」

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちの生活と米が密接な関係にあることに気づき、地域の方と米作りを体験したり、本やインターネットを使って調べた米の魅力を他学年や保護者、地域の方に発信したりする学習を通して、課題を追究し、自分にできることを考え、相手や目的に応じて、実践していこうとする。

【連携諸機関・人物】

・地域のゲストティーチャー

活動の概要

6年生から米作りの楽しさや苦労をインタビューし、自分たちの米作りをどう進めていくか、作った米をどのように活用していきたいかを話し合った。そこで、「米の魅力を多くの人に知ってもらおう。作った米を佐方オリジナル米として売り出す。」という二つのめあてを設定した。米の魅力を発信する活動では、インターネットを使って米の歴史や種類、レシピ等を調べ、新聞にまとめて掲示したり、米辞典を作ったり、他学年も楽しめるようクイズラリーを開催したりした。また、佐方オリジナル米として売り出す活動では、学校の田んぼで地域の方に教えていただきながら米作りをし、できた米で作ったポン菓子で保護者や地域の方に配る「米フェスティバル」を開催した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入段階で、6年生に米作りのコツや苦労、達成感等のインタビューをしたことで、米作りに対しての意欲が高まった。また、「佐方オリジナル米として売り出そう！」という単元のめあてを立て、児童が単元をどのように進めていくのかを主体的に計画立てていくことができた。
- ・地域の方を米作りのゲストティーチャーとして来ていただくことで、米作りについて詳しく教えてもらうことができた。また、昔の米作りで使っていた道具を使って脱穀等の作業をしたことで、社会科で学習した現在の米作りとの比較ができ、理解が深まった。
- ・米の魅力について情報収集し、発信する活動では、タブレットを積極的に活用して情報収集をすることができた。集めた情報を整理・分析する際は、相手が興味をもつ情報か、米を食べたくなるような魅力のある情報かを視点を、何を伝えていくのか選択していくようにした。発信する際は、各クラス多様な方法で伝えることができた。学校全体で行った「米クイズラリー」では、250人以上の参加があり、米の魅力を効果的に伝えることができていた。
- ・保護者や地域の方に向けた「米フェスティバル」では、自分たちで作った米を「ポン菓子」にして配布した。ラベルを工夫したり、各クラスの米ブースを作ったりして、いろいろな人と関わりながら活動することができた。



児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 児童が主体となって目標を立てたり計画したりすることで、活動中も「もっと～した方がいい」や「～してみよう」と自分たちで話し合いながら活動を調整していく姿が多く見られた。
- ◇地域の方や他学年等、これまでよりも多くの人と交流する機会を設けることができた。
- ◇次年度はより佐方の地域の良さをもっと生かした米作りの取組を考えていくことができるといったと思った。

単元名

「ずっと住み続けたい阿品台に！」 ～阿品台ビフォーアフタープロジェクト～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる阿品台に関心を持ち、阿品台の多くの人々が利用する施設（場所）について、誰もがくらしやすい阿品台にするために、どうすればよいのか、地域住民として考え、発信することができる。

【連携諸機関・人物】

- ・保護者
- ・広島電鉄株式会社
- ・アジナモール（ピュアクック）
- ・阿品台市民センター

活動の概要

廿日市市・阿品台地区の人口の変遷（2050年までの予測）の実態から、単元「ずっと住み続けたい阿品台！」を設定した。阿品台の多くの人々が利用する場所の「よさ」と「課題」を経験やアンケート・現地調査をもとに探り、インターネットやインタビュー等を通して、それぞれの課題解決の方策を考え、保護者の方に参観日を利用して提案を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入段階で、人口減少・高齢化が進むことをグラフから読み取ることで、この単元を切実な課題としてとらえることができた。
- ・コロナ禍の影響で、児童による実際の現地調査（インタビュー等）が制限される中、手紙などを通して、施設の方から詳しい返答をいただけたことが、児童の調べようという意欲へとつながった。
- ・アンケート結果をもとに課題を考え、誰にとっての改善策なのか対象を絞ることで、具体的な改善策を考えることができた。
- ・国語科「町の幸福論 ～コミュニティデザインを考える～」で学んだ「バックキャストイング」を活用して、どんな阿品台にしたいかを考えさせた。
- ・グーグルフォームを活用したアンケート方法により、学校内児童に伝えてもらった内容が容易にグラフ化することができ、プレゼンテーションに使うことができた。
- ・グーグルスライドで、プレゼンテーション資料を作成し、参観日を利用して保護者の方に提案できたことで、児童の意欲も高まり、保護者の方にも児童の成長やICT教育を実感してもらえた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 他グループで聞き合い、発表の際のお互いの良い点や課題点を伝え合うことで、より分かりやすいプレゼンを考え、相手意識をもったよりよい発表となるよう工夫するようになった。
- 多くの対象の中から、自分が興味・関心のある施設を選び、課題解決の方策を考えることで、主体的に取り組む姿が見られた。
- ◇グループ学習では、きちんとみんなで、誰がどこを分担するとか、話し合ったり、協力したりしてできた。
- ◇今回は地域（阿品台地区）のことを考えていったが、次回は、幅を広げて、廿日市市のことを考えていきたい。

単元名

「阿西小のすてき」 ～学校のすてきなところを見つけよう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

学校の良さを調べることで、海あり山ありのふるさと廿日市市でたくさんの人々に支えられて育っていることに気づき、自分たちのできることを実践していこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

学校の教職員
宮島地域の方々

活動の概要

「阿品台西小学校のすてきを見つけ、たくさんの人に伝えよう」をテーマに活動を開始。

- ① 校章・校歌・シンボルツリー（双けやき）について調べる。
- ② 学校から見える「宮島」について調べ、現地を訪れてよさを体感し、新聞にまとめる。
- ③ 「学校のすてき」について、先生を対象にインタビューし、ポスターにまとめる。
☆デジタルカメラ・タブレットのカメラ機能・パソコンの使い方を学ぶ。
- ④ 2年生に先生たちに取材した「学校のすてき」を発表する。
「廿日市市」について社会科で学習したことを含めて「ふるさと廿日市」のすてきについて考え、これから自分たちが実践したいことを交流し合う。☆ジャムボード等を活用

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等
- ・イメージマップを作成し、阿品台西小学校について、知っていること・知りたいこと・調べたいことを書き出して交流し、「自分たちの調べたい・確かめたい」対象として学校をとらえ直すことから学習をスタートさせた。
- ・ICT 機器の活用により、「世界に発信することも可能」だという発展性を伝えながら、はじめに発表する相手を「2年生」に限定した。自分たちの手で実現可能な課題だととらえることで安心して活動に取り組むことができた。
- ・「海が見える」→「宮島が見える」→「行って体験してみたいことがたくさんある」→「行く前に調べておこう」と、児童の意欲の高まりと学習活動をリンクさせることができた。
- ・学校の教職員への取材を学習活動に取り入れることにより、教職員の協力を得られた。また、学校の良さを子どもたちと共に考えもらう事ができた。



＜先生にインタビュー＞

児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 学校の良さ・廿日市の良さについて多様な面から考え、感じる事ができた。
- 学校の教職員への取材から、「子どもたちのことを思っている」「子どもたちを守ってくれている」等、心情的に深い気づきを生む内容のあるものとなった。
- ◇直接話を聞いたり、出かけて調べたりする活動を増やすとさらに効果的な学習になると考える。学校や地域の「課題」を発見し、解決したいという意欲につなげたい。

単元名

串戸の福祉 ～串戸のまちづくりをしよう！～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる串戸の福祉について、体験活動やインタビューを通して知り、みんなが住みやすい町になるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・甘日市社会福祉協議会
- ・阿品台手話サークル
- ・点訳クラブあい
- ・ボランティアG飛来行
- ・くさのみ作業所
- ・アマノ 居宅介護支援事業所

活動の概要

「福祉って何だろう？」という問いかけから、自分たちが住む場所には、どのような人がいて、どのように生活しているのかについて調べていく中で、「みんなが住みやすい串戸のまちづくりをしよう！」という課題を設定した。さまざまな体験活動をした後に、地域の中で福祉の視点からどのような工夫がされているかを見付けたり、新たに提案したりする計画だったが、コロナ禍で校外探検ができなかったため、一人一人が福祉をテーマに課題設定し、自分の課題解決に向けて調べ学習をしたり、まとめたりした。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



〈手話教室〉



〈点字教室〉



〈車椅子体験〉



〈認知症サポーター体験〉

- ・甘日市の団体にお願ひし、4種類の体験活動を行った。**様々な体験活動を仕組むことで**、福祉に関する児童の関心・意欲が高まった。
- ・国語科「**みんなで新聞をつくらう**」の学習と関連付け、体験活動でのことや調べたことについてまとめて6年生に伝えた。相手を意識して、見出しや記事について伝えたいことの内容を明確にして作成させた。
- ・活動を通して分かったことや調べたことを、新聞にまとめたり、スライドを作成したりして、福祉について学習していない6年生に向けて発表会を行った。**手話講座やクイズなど、相手に伝わりやすい表現方法を選択させて取り組ませる**ことで、児童の達成感や満足感の向上につながった。
- ・情報収集したものをまとめる際には、chromebookのスライドや模造紙などを使ってまとめさせた。**自分に合った表現方法や目的に合わせた表現方法を選択して**取り組ませた。
- ・本来は、串戸のまちづくりについて考える予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域に出かけることができず、**一人一人が福祉をテーマに課題設定し**、自分の課題解決に向けて調べ学習をしたり、まとめたりさせた。

児童生徒の姿 (○), 振り返り (◇)

- 一人一人に課題を設定させたり、まとめ方を選択させたりすることで、串戸の福祉について提案したり、他地域の取組を串戸に取り入れたらよいなど、様々な視点でまちづくりについて考えることができた。
- ◇自分の周りには様々な人がいるということは知っていたけれど、体験活動を通して、その人たちがどのように生活しているのか、その人たちに自分はどうに対応すればよいのかが分かった。

単元名

「ぼくらのビオトープ」 ～地域の自然とそれを守る人々～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちの学校にあるビオトープやそれを支える人達がいることを知り、地域のために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

・ビオトープの会

活動の概要

生物に関わる「理科」の内容から活動を広げていき、全国的な賞を取ったことのある宮園小のビオトープについて知る活動と生き物の多様性を体感する活動の両輪で学習を進めた。これらを通して、生命を大切にしようとする態度や地域を愛する心情を育てる。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・自校のビオトープを活用することで、愛校心や地域への誇りが育てられた。
- ・コロナ禍で活動が制限される中、豊かな体験活動を行うことができた。
- ・カブトムシの幼虫を観察したり、持って帰って飼育したりすることで、生命尊重の態度が育成された。
- ・理科の「チョウを育てよう」や「トンボやバッタを育てよう」とリンクして、活動を行うことができた。
- ・サツマイモやダイコンを植えたり、収穫したりするだけではなく、収穫物を持って帰ることで、様々な料理を作りたいと食に関する興味も広がった。
- ・珍しいカブトムシ、クワガタムシやトンボの標本を見せてもらったり、詳しく説明してもらったりすることで、こん虫が苦手な児童も関心をもって取り組むことができた。
- ・ビオトープの会の方も宮園小学校の児童のことをよく知っており、活動の計画がやりやすかった。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 身近なところに豊かな自然があると気付くだけでなく、そこにはたくさんのこん虫が住んでいることが分かった。
- 宮園のビオトープがどのような思いで作られたのかを知り、その思いやできるまでのことについて、新聞、リーフレットやまんがで表現した。
- ◇これからも宮園小学校の自慢であるビオトープを大切にしていきたい。

単元名

宮園の未来のために ～宮園に住む私達からの提案～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちの暮らす宮園をよりよくするために自分たちにできることを考え、実現に向けていろいろな立場の人と意見を交換させ、社会の一員として主体的に町づくりに参画しようとする態度を育成する。

【連携諸機関・人物】

(宮園市民センター・ビオトープの会・宮園会・ふるサポ・宮園児童館)

活動の概要

自分たちの暮らす宮園についての良さや課題といった情報から、宮園をよりよくするために自分たちにできることについて保護者・地域の方に向けてプレゼンテーションを行わせる。そして、実現に向けていろいろな立場の人と意見を交換させ、よりよい宮園の実現に向けて自分にできることを実行させる。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・国語科「町の幸福論」の学習を発展させ、調べたことを保護者や地域の方に発信するというゴールを設定することで、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・本やインターネットに加えて、公園などに足を運んで資料として使う写真などを集めたり、電話でインタビューしたりするなど、様々な方法で情報を集めた。また、教師が場を設定するのではなく、自分達で地域の方に直接電話などでやり取りをさせることで、切実感もあり、国語科で学んだメモの取り方や話し方などの学習内容も実体験の中で生かすことができた。
- ・タブレットを活用して、写真やグラフなどの作成した資料を使い、プレゼンテーションを行うことができた。
- ・保護者・地域の方に向けて自分たちの思いを伝えることができると同時に、保護者や地域の思いも聞くことができ、町づくりにおいて大切なことなどを多面的に考えることができた。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 自分たちの町について知るだけでなく、実際に自分達にできることを考え、少しでも町をよくするために行動できた。単元が終わった後も自ら考えた課題の解決に向けて継続的に取り組む児童の姿も見られた。
- ◇教科を横断的に学習することができ、これまで学んできた知識を活用して活動できた。特に自分事の課題として取り組んでいる児童が多く見られたことは指導者としてとても嬉しかった。

単元名

「四季が丘未来づくりプロジェクト」 ～ふるさとのために自分たちにできること～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちの住んでいる四季が丘に関心を持ち、四季が丘の未来について考える。四季が丘の現状について情報を収集する。集めた情報を踏まえて、良い点や課題などに整理・分析する。その後、よりよい地域の未来を想像し、自分たちにできることを考え、実践する。

【連携諸機関・人物】

- ・四季が丘市民センター
- ・四季が丘コミュニティ

活動の概要

1学期の総合的な学習の時間で行った SDGs の学習や国語科「町の幸福論」の学習を通して、「四季が丘をより良い町にするための提案を考えよう。」と課題設定した。四季が丘の現状や課題について情報収集し、その結果を整理・分析し、四季が丘をより良くする提案をチームごとに行った。学年全体で複数の提案について吟味し、1つの提案にしぼり計画を立てた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・課題設定では、1学期の SDGs の学習で取り組んだことを振り返ったり、国語科「町の幸福論」の学習と関連付けたりすることで児童が学習の目的を明確にすることができた。
- ・収集した情報を表やグラフにまとめる際には、スライドやフォームなどタブレットの機能を活用した。それにより児童は、それらの作成や修正、共有をスムーズに行うことができた。



【現地調査】



【ICTの活用】



- ・提案を発表する際には、スライドを活用することでイメージを視覚化することができた。また、市民センターの所長さんや四季が丘コミュニティの方に提案の講評をしていただき、考えた提案を実現していこうという児童の意欲が高まった。
- ・紹介し合った提案について吟味する際には、座標軸を使うことで「四季が丘の町を良くするために効果的な取組であるか。」「多くの人に参加したくなるような楽しい取組であるか。」という2つの視点を明確にし、比較・検討することができた。
- ・学年で選ばれた提案は、「植栽&宝さがし」に決まった。計画を立てる際には、5年生にも参加してもらうことによって、来年度からも SDGs や四季が丘をより良くする取組を継続してほしいという思いをもつことができた。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

○SDGs の学習や四季が丘未来づくりプロジェクトの学習を通して、児童が自ら公園のごみ拾いを行うようになったなど、自分たちの生活の中で課題を発見し、解決のためにできることなどを行動していくことが大切だと気付くことができた。

◇私たちの住む四季が丘をより良いまちにするために、これからも自分たちにできることを少しずつでも、していきたいと思いました。また、一人一人の取組も大切だけど、多くの人を取り組んでくれた方がより効果的なのかなと思いました。

単元名

「ふるさとを元気にしようプロジェクト」 ～ふるさと未来かがやき隊～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちの住む地域の産業について探究的な学習を通して、地域活性化に携わる人々の思いや願いに気付くとともに、地域の未来のために自分たちにできることを考え実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・友和地区コミュニティ推進協議会
- ・友和小学校PTA
- ・友和小学校見守り隊

活動の概要

本校第5学年がこれまで行ってきた学びの足跡をたどり、「人にとってふるさととはどのようなものなのだろう。」という本質的な問いを考えることをきっかけにして、課題を設定していった。友和地区コミュニティ推進協議会の「竹炭名人」の方から、地域の産業の歴史について詳しく話を聞くことを通して、情報収集し、地域産業の問題点の解決に向けて具体的な学習計画を立てた。実際に「竹炭作り」を体験し、地域産業の発展には、地域の課題に目を向けることが大切であることに気付かせる工夫をした。また、整理・分析したことをまとめることを通して、地域の発展のために自分たちができることに対して考えを深めていった。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入の段階で、地域のコミュニティ推進協議会が作成した動画を見たことによって、児童の関心を高めることができた。
- ・これまで引き継がれてきた「竹炭作り」の学習をきっかけにして、本質的な問いから、単元計画の構想を立てることができた。
- ・全体の問いを解決していくと同時に、個別の問いに対する考えを深めていくように発展させていった。
- ・地域のコミュニティの方々との関わりをもつことを通して、児童自身が課題を自分事として捉え、「自分たちの育ったふるさとがいつまでも輝き続けてほしい。」という思いや願いをもてるような活動を工夫した。



【竹炭名人から話を聞こう】

児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 自分たちの地域の課題に対して関心をもつことができるようになった。
- 過去・現在・未来のそれぞれの視点から、ふるさとに対する考えを深めようとする姿が見られた。
- 地域の産業の歴史に関心を寄せ、地域のコミュニティの方々とのふれ合いを通して、自分たちのふるさとを守る活動の意味を理解し、人にとって「ふるさと」とはどのようなものなのか考えを深めていく姿が見られた。



【竹炭作りの体験】

- ◇1年間の学びをリーフレットにまとめる活動を通して、自分たちの地域の課題に目を向け、地域のすばらしさを伝える活動をしている人々の深い思いや願いに気付くとともに、未来のふるさとのために自分たちにできることを実践していきたいと振り返ることができた。

単元名

環境と伝統文化「津田調査隊」 ～地域に伝わる文化～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

地域の伝統文化のすばらしさや人々の願いや継承する工夫を追求することで主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。

【連携諸機関・人物】

津田神楽団

活動の概要

津田地域の文化について、児童が関心をもっている「神楽」に焦点を当てて、課題を設定した。児童は、佐伯地域には五つの神楽団があり、その中の一つ津田神楽団が舞う「津田神楽」は、広島県無形民俗文化財に指定されていることを知る。「津田神楽」について関心を高めた児童は、さらに調べる計画を立てた。動画や本、神楽団員から直接お話を聞く機会などを通して、津田神楽について調べ、リーフレットにまとめた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・動画を通して、舞の所作や太鼓や笛の音色などを知ることができた。
- ・広島県無形民俗文化財について、指定されている理由や他の無形民俗文化財について調べた。
- ・ゲストティチャーとして招いた神楽団の方々が、わざわざ衣装に着替え、雰囲気を出し出す工夫をしてくださる中で、神楽の歴史や今後の願いを聞くことができた。また、衣装やお面、道具を身に付けたり、持ったりすることができたことにより、児童は神楽への関心を高めた。
- ・国語科「ふるさとの食を伝えよう」と関連付けて、調べたこと、自分の感じたことや思いを整理して書くことに取り組んだ。
- ・作成したリーフレットについて、津田神楽団の方々から肯定的評価をいただき、津田神楽の発展のために役に立ったと感じることができた。



児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 津田神楽の歴史の中で、活動を休止したことが三度あることを知り、困難を乗り越えて今に受け継がれていることに気付くことができた。
- リーフレット作りでは、学んだことの中から自分が読み手に伝えたい内容を自己決定し、見出しや挿絵を工夫して、分かりやすく書くことができた。
- ◇「津田神楽」のことを学習して、社会科で学習した「熊野の筆」のように津田神楽も広島県の伝統文化として、多くの人に知ってもらいたいと思います。

単元名

SDGsの視点から吉和の未来を考える ～持続可能な吉和地域にするために～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

SDGsの考え方をもとに、吉和地域の良さや課題に気づき、持続可能な吉和地域にするための方法を考え、発信・提言することができる。

【連携諸機関・人物】

- ・吉和地域の各事業所
- ・廿日市市役所（吉和支所、シティプロモーション室）
- ・吉和福祉協議会
- ・吉和の未来を考える会

活動の概要

過疎化が進む吉和地域を「持続可能なまち」にするためにはどうしたら良いかを考えるために、本単元を設定した。小3～中3までを3つのグループに分け、高齢者や若い人が住みやすいまちづくり、吉和小・中学校でできるSDGsの取組について考えた。その後、保護者・地域住民へのアンケート調査の結果を基に、中学生が吉和地域の調査を行い、PR活動につなげた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・昨年度までの学習で明らかになった吉和地域の課題を解決するために、SDGsの視点から「自分たちができること」をコンセプトに取組を提案し、実践することができた。
- ・小3～中3を縦割りして3つのグループに分けて、①お年寄りに優しいまちづくり、②若い人たちが住みたくなるまちづくり、③吉和小・中学校でできるSDGs、のテーマに沿って取組を考えることで、異学年間の学び合いの場ができた。
- ・吉和支所やシティプロモーション室などの行政機関や吉和地域コミュニティの「吉和の未来を考える会」と交流し、自分たちの考えを伝えた上でアドバイスをもらった。
- ・Googleフォームでのアンケート実施やZoomなどを活用して、諸機関等との連携・交流を行った。
- ・中2の国語科「職業ガイドを作ろう」の単元でICTを活用した資料づくりや発表の方法を、総合的な学習の時間の発信・提言に応用することができた。
- ・自分達一人一人の行動がSDGsの一步になることや、吉和小中学校での取組が、持続可能な吉和地域づくりにもつながること、今後の行動計画等をプレゼンにまとめ、10月の公開研究会や2月の「ふるさと学習」発表会で、吉和地域や廿日市市内に向けて発信した。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 吉和地域の良さや課題について、SDGsの視点から解決方法や取組を考え、実践することができた。
- 吉和支所やシティプロモーション室等、「大人からのアドバイス・支援」を得ることで、自分達の取組に自信をもち、今後の行動計画をたてる意欲につながった。
- ◇SDGsを自分事として意識するきっかけとなる取組だった。提案したことをこれからも継続・発展させながら、本校での取組を吉和地域や廿日市市内外に広げていきたい。

単元名

みんなでつかう まちのしせつ つたわる 広がる わたしの生活

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

公共施設の見学を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたり、それらを支えている人々がいることに気付くとともに、施設やそこで働く人々を大切に思うことができるようにする。

学習したことを伝え合う活動を通して、人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い、交流しようとするができるようにする。

【連携諸機関・人物】

「大野東市民センター」

「大野学校給食センター」

活動の概要

- 1 自分たちの生活に関係する公共施設について考える。
- 2 施設に見学に行く。
 - ・調べてきたいことを考えよう。(見て調べること、聞いて調べること)
 - ・どんな思いで働いているのか、そこで働く人々についても調べてこよう。
- 3 見学して分かったことをまとめ、伝え合う。
 - ・1番伝えたいことをまとめよう。もっと詳しく伝わるように絵を描こう、模型を作ろう。
 - ・友だちの発表を聞いて、自分の考えと比べよう。
- 4 学習を振り返る。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

○施設の写真を見せたり利用したことがある児童の話聞かせたりして、何をするとところなのか、どんな人が働いているのか予想をもたせた。そして調べてきたいことを具体的に考えさせた。

○事前に、児童が知りたいと思っていることを施設に知らせ、「調べることができた」「分かった」という満足感や達成感もてるようにした。

○見学時、指導者の意図的な質問で児童の思考を広げたり深めたりするようにした。

○学校行事「避難訓練」、学活「野菜となかよくなるよう」の学習で、それぞれの施設の役割やそこで働く人々の思いが確認でき、施設を大切にしていこう、働く方に感謝の気持ちをもとうという思いを実感することができた。

○写真を使って見学の様子を振り返り、自分が伝えたい事柄が詳しく伝わるようにした。

○伝え合う活動では、「分かったこと」と「それに対する考えや思い」を文章にまとめた。絵や模型作りでは、友だちと協力して活動させ、どのように表現すれば分かりやすく伝わるのか、教え合って作成させた。発表会では、絵を電子黒板に映して大きく見せた。



この壁はどうやって開けるの？どうして壁の中に片付けているの？



鍋はこんなに大きかったんだ。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

○施設には役割があることや自分たちの生活に大きく関わっていること、そこで働く人々は利用者を大切に思っていることなどに気付くことができた。

○学習を通して、誰もが安心して生活できる地域にしていきたい、感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいという思いをもつことができた。

◇給食を作るのはとても大変だと分かりました。これからは残さずに食べたいです。

◇大野東市民センターのことが分かりました。自分も図書室に行って本を読みたいです。

◇大野東市民センターは災害時に利用する所でもあるので、きまりを守って大切に使いたいです。

単元名

大野のすてきを見つけよう

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

「大野のすてき」イメージマップを作成したり、家族や地域の方にインタビューしたりして、地域の良さや住みやすい町について考え、発信することができる。

【連携諸機関・人物】

・大野東市民センター館長

活動の概要

大野のすてきな場所に視点をあて、初めての総合的な学習の時間の学習の仕方の概要をつかんだうえで、①自分の課題を設定する（場所を決める）②その場所について各自調べる（インタビュー、インターネットで検索、図書等文書資料を調べる、アンケートなどの方法を知る）③調べたことをまとめる（今回は国語科と関連付けリーフレットにする）④伝える（学級交流および市民センター館長）の活動を行う。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- 大野東市民センターの館長さんが大野東地区に今年度着任され、大野のことを知りたいと言われているということを知りたいたいことを児童に知らせ、その上で「教えてあげたい」という目的意識・相手意識をもたせた。読みやすいように丁寧に仕上げたり、相手に伝えることを意識した文章を書いたりしている児童が多かった。
- 国語科の学習と連動させ、リーフレットにまとめることで教科での学びを生かすことができた。
- インターネット検索の必然性があったため、児童は検索の仕方を主体的につかむことができた。また、自然と教え合いも始まり、同じテーマの児童は協力して調査したり、データを交換したりしていた。また、インターネットで検索した資料には、使えるものもあるが、難しかったり、実際ほしい直接的な記事がなかったりすることを理解した。
- いくつかの調査方法を知らせたので、自分の調べたいことに合わせて調査方法を選んでいた。

児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 友達のリフレットを読み合うことを通して
 - ①自分の今まで知らなかった大野のことについて知った。
 - ②ほかの人が使った表現の方法について知り、使いたいと考えた。
- ◇みんなの文章を読むと、大野にはまだまだ知らないことがあるんだなと思った。
- ◇調べ学習はコツをつかんだ。これからもこの方法はいっぱい使えそうだ。
- ◇やる前は難しそうと思ったけれど、意外とかんたんだった。まだレポートを書きかけた。総合がすきになった。

単元名

災害を調べよう・災害に備えよう



【関連のある SDGs の目標】

【単元の目標】

自分たちが住んでいる地域にはどんな災害が起こりうるのかやそれに対して地域の方がどのように備えているのかを知ることによって、自分たちがどのように災害に備えればよいかを考え、それを実行する力を育てる。

【連携諸機関・人物】

○廿日市市役所大野支所防災担当の方
○大野1～4区の各区自主防災組織の皆さん

活動の概要

- 1 風水害を知ろう
 - ・廿日市市役所大野支所の防災担当の人から、災害について話を聞く。
- 2 防災マップを作ろう
 - ・市が作成しているハザードマップをもとに、自分の家の周辺のハザードマップを作成する。
- 3 自分たちの住んでいる地域を調べよう
 - ・各地域の避難場所を見学する。その際に、各地域の自主防災組織の方に話を聞く。
- 4 分かったことをまとめよう
 - ・見学して分かったことや考えたことを新聞にまとめる。
- 5 マイタイムラインを作ろう
 - ・大野支所の防災担当の人から、マイタイムラインの内容とその作り方について話を聞く。
 - ・マイタイムラインを作る。
- 6 防災公園を見学しよう
 - ・新しくできた防災公園を見学する ・見学したことをまとめる ・まとめたことを発表する
- 7 単元全体の振り返り
 - ・単元全体を通して分かったこと、思ったこと、考えたことを振り返り、まとめる。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- 地域の自主防災組織の方々と連携して、実際に避難場所を見学したり、自主防災組織の方々に取組について話を聞かせていただいたりした。
- 社会科の「災害からくらしを守る」を学習した後に本単元を実施し、学習の理解を深めた。
- クラスを解体して、自分が住んでいる地区（1～4区）ごとにクラスを再編成することで、自分が住んでいる地区のことを詳しく学習できた。
- 廿日市市役所大野支所の防災担当の方にゲストティーチャーとして来ていただき、災害のことやマイタイムラインのことについて詳しく話を聞くことができた。学習の理解が深まった。
- 校区にできた新しい防災公園（2021年3月完成）を見学することで、防災に対する理解が深まった。

児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 市の防災担当の方に出前トークをしていただき、画像を使った詳しい説明で、理解が深まった。
- 自分たちが住んでいる地域を中心に話していただいたので、学習に対する意欲が高まった。
- 地域の自主防災組織の方と連携し、避難所見学の時に話をさせていただいたり、質問に答えていただいたりして、児童は意欲的に学習した。
- 自主防災組織の方が、とても意欲的に関わってくくださった（非常食作り・防災設備や防災道具の紹介など）ので、自分のこととして学習に取り組むことができた。
- ◇今後は、自主防災組織の方々がどのような思いで活動に取り組んでおられるのかという「思い・願い」についても学習していきたいと考える。

単元名

大野の特産物を宣伝し隊！！

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

大野の特産物について調べたり、聞いたりしたことを分かりやすい宣伝方法で他学年に発表することを通して、大野のよさをどのように受け継ぎ守っていくか、自分達にできることを考えることができる。

【連携諸機関・人物】

深江アサリ漁場組合の方

活動の概要

- 1 1学期に調べた大野の特産物を宣伝することに興味関心をもつ。
 - ・調べた大野の特産物を宣伝することに関心を持ち、相手意識をもって活動計画を立てる。
- 2 宣伝するためにさらに情報をさらに集める。
 - ・宣伝するために1学期に調べた情報以外にも、伝える相手に印象付けるような情報を収集する。
- 3 大野の特産物を印象付けるような宣伝方法を考える。
 - ・調べた情報をどのように発信すれば、伝わりやすく印象付きやすいかを考える。
- 4 グループごとに宣伝方法を再検討する。
 - ・グループごとに発表し合う中で、互いに集めた情報を共有し合い、より分かりやすく伝わりやすい宣伝方法を練り合う。
- 5 グループで他学年に、大野の特産物を宣伝する。
 - ・他学年へ、大野の特産物を宣伝する。
- 6 振り返り
 - ・自分の実践や、友達の実践の交流をし、活動を振り返る。また、調べて分かった大野のよさを受け継ぎ守っていくために、自分達にできることを考える。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- 実際に潮干狩りに行き、漁場組合の方と一緒に潮干狩りを体験した。また、漁場組合の方と連携をし、大野あさりの特色や、大野あさりを守り受け継ぐ取組などの話を聞かせて頂いた。
- 主にグループでの活動を行った。グループごとに低学年に合った言い方を考えたり、4年生には来年の潮干狩りのために役立つ情報を伝えたりするなど、相手意識をもって活動することができた。
- 漁場組合の方に潮干狩りの際は掘り方やあさりがどのような所に生息しているかなど、実際に活動しながら話を聞かせて頂くことができた。また、校区内に大野あさりを掘ることができる場所があることから、海の環境問題や海洋資源を守っていきたいと思えるようになった。
- 漁場組合の方からたくさんの事を教えて頂いたり、自分達で調べたりすることで、他学年にも「知ってもらいたい」「教えたい」と思うようになった。
- 社会科「わたしたちの生活と食糧生産」で、日本の食糧自給率が低いことを知り、地産地消の大切さを学んだ。大野に住んでいる自分達にできることを、総合で学んだことと関連させて考えることができた。
- 大野あさりについて調べるときは、常にインターネットを活用した。他学年に宣伝する際は、自分達でスライドを作成して行ったグループもあった。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 始めは廿日市の郷土料理について、ほとんど情報やイメージが無かったが、郷土料理を調べると、廿日市独自の文化や生活の様子などが分かってきた。
- グループで調べたりまとめたりする過程で、友達と主体的に関わる姿が見られた。
- ◇これからは、大野地域や食生活について自分なりの考えをもち、自分達にできることを考える力や、実践していこうとする力を育てていきたい。

単元名

「大野の今を見直そう」

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

大野にある様々な神社や史跡について知ることを通して、大野の歴史・自然・文化を大切にし、今まで継承してきている人々の努力や苦労や願いに触れ、これからの自分の生き方について考える学習をする。

【連携諸機関・人物】

大野歴史ガイドの会

活動の概要

- 1 今の大野の魅力・特徴「大野らしさ」について話し合う
 - ・5年生までに学習した体験をもとに地域の魅力や素敵な点を話し合った。
 - ・歴史の学習をふまえて、昔と今の比較や他地域との比較も話し合った。
- 2 日頃、目にしているが、それは何かな？不思議だな？もっと知りたいなと思うことを出し合う
 - ・「西国街道」は、中山方面と高畑方面とにつながっており、史跡がたくさんあることを知った。
 - ・日頃自分達が、歩いている場所や遊んでいる場所については分かっているが、自分達がまだ知らない場所がたくさんあることに気付いた。
- 3 課題の設定

西国街道を歩き、史跡を調べよう！ 大野に受け継がれてきた人々の努力や願いを知り、自分たちのこれからの生き方に生かしていこう！
- 4 西国街道を歩いて情報を収集しよう
 - ・大野歴史ガイドさんに案内してもらって、西国街道の遺跡や史跡を探検した。
 - ・里塚や歌碑、駅家跡や「大野五郎伝説」などから、自分達の地域の歴史的価値やすばらしさ、先人の苦労や努力を知った。
- 5 個人の詳しく知りたいことを見つける
 - ・さらに詳しく知りたいことを資料やインターネットで調べた。
- 6 ○○新聞の作成
 - ・調べて分かったことや気付き、感想などを新聞にまとめた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- 地域の歴史ガイドの会の方と連携し、学級ごとにガイドさんと一緒に史跡を歩いて回りながら、それぞれの史跡で詳しく説明をしていただいた。
- 社会科の歴史学習における理解を深めることができた。
- 道徳『天下の名城をよみがえらせる』という資料において歴史的建造物を大切にし、文化を継承することの苦労を学んだ。史跡を大切にしたり文化を継承したりしていくことの意義を考えさせた。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 大野には、こんなにも沢山の史跡や遺跡があることに驚き、誇りを感じていた。
- 本校の前身である蓮華寺の鐘が、第2次世界大戦後に外国で見つけたことに驚き、社会科の戦時中の生活の様子についての学習で聞いた話が身近でも起こっており、より地域の歴史について深く興味をもつことができた。
- ◇資料やインターネットで調べたことを「写す」学習に留まっている児童に対して、多くの情報から必要な情報を取捨選択させる力をつけていく必要がある。また新聞形式でまとめたが、読み手に「伝える」内容ではなく、史跡の説明に終わっている児童もいたので、この点においても指導を継続する。

単元名

「大野のステキを見つけよう」 ～大野の自然を守る人から探ろう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる町の自然について知ることを通して、自分たちの住む町のよさについて考え、これらの自然を大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

・廿日市市役所（環境政策係）

活動の概要

児童は、1年間を通して、自分の住んでいる大野のステキをさまざまな視点から見つけていく。1学期は、さまざまな方法で調べることを通して、毛保川を中心に大野の自然の良さを見つける。毛保川に棲む生き物について情報収集し、実際に毛保川上流の探索をしたり、環境を守る方たちの話を聞いたりした。活動を通して見つけた大野の自然のステキを、新聞にまとめ、校内に掲示した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等
- ・導入段階で**イメージマップを用いて**大野の自然について思いを広げることで、関心を高めた。
- ・探索に行く前に川の生き物について**タブレットや図書を活用して情報収集**をしたことで、より多くの情報を集めるために実際に探索に行くことへの意欲が高まった。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため探索が延期になった際には、**環境政策課の方に採集していただいた生き物を使う**ことで、校内でも実際に生き物を観察することができた。
- ・観察やゲストティーチャーの話を通して、児童が想像していた以上に大野の川には多様な生き物がいることに気付くことができた。
- ・実際に川の生き物や水に触れ、大野の自然を体感することで、生き物の棲む場所や採り方など**体験することでしか得られない情報を得る**ことができた。
- ・まとめる段階で、**国語科「みんなで新聞を作ろう」の学習と関連付け**、伝える内容の選別やレイアウトを工夫し、毛保川についての新聞記事を書く活動を行った。
- ・**新聞を校内に掲示する**ことで、いろいろな学年に読んでもらうことで達成感を得られるようにした。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 身近な自然に改めて目を向けることで、大野の自然のよさや自然を守ることの大切さに気付くことができた。
- インターネットや図書、体験活動など、様々な方法での情報収集により、児童自身の知りたいことを深めていくことができた。
- ◇たくさんの生き物が棲んでいるのが分かって、これからも大野の自然を大切にしようと思った。

単元名

【関連のある SDGs の目標】



宮島の海や生き物を守るために、私たちになにができるだろうか

【単元の目標】

自分たちが住んでいる宮島の海に関心を持ち、海を取りまく課題について調査し、結果を分析する。その後、よりよい海の在り方を考え、自分たちができそうな課題解決のための手立てを考え、実践する。

【連携諸機関・人物】

宮島水族館（沖さん） ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会（坂本さん） 市民団体「みやじま未来ミーティング」（呼坂さん） 宮島支所 広島大学大学院附属宮島自然植物研究所 地域のお店（紅葉堂、錦水ホテル） 事業所（牡蠣養殖場）

活動の概要

海を中心とした宮島の生き物や自然を調べる中で、ゴミ問題等の環境やこれからの自然の在り方、自分たちのかかわり方について考え、課題の解決に向け自分たちにできる実践を探求し取り組んだ。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・**地域人材、財産等の活用**
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

例年、学校前の海岸で宮島水族館職員と一緒に海の環境調査を行っている。本年度はミヤジマトンボ保護管理連絡協議会による「潮汐湿地に住む絶滅危惧種のミヤジマトンボの生態に関する話」を切り口に、「指標生物を用いての海の調査」から宮島の海や生き物を守るためにどうしたらよいか考えさせることとした。海の環境の調査結果を小学5年生と中学1年生で持ち寄り、縦割り班で環境の状態を判定する。その結果を専門家（市民団体「みやじま未来ミーティング」、宮島水族館）に提出し、取組に関する意見を聞いた。

その後の話し合いで「海の汚れの実態調査」が必要と考え、海浜のゴミ調査を行った。海浜で回収・採取したゴミの種類分析の結果からわかったことについて話し合い、ゴミ解決方法についてどのように取り組んでいけばいいか考えさせた。子供たちは、どこからのゴミか、又、ゴミは困ることなのかを調べ、それを減らすためどうしたらよいか話し合い、「大人は排出ゴミにどのように取り組んでいるか」という疑問を持ち、宮島支所や地域のお店、牡蠣養殖場へインタビュー調査を行った。また、小学5年生は主にプラスチックゴミについて、中学1年生は小学5年生の時に学んだことをもとに、海の環境保全には陸の森などにもつながりがあることにも目を向け、自分たちに何ができるかということ考えた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 国語での既習内容を活用して構成を考え、聞き手を意識した発表をした。（小5）
- 疑問を解決するために誰に聞いたらよいか自分たちで考え、すすんでインタビューを行った。（小5・中1）
- ゴミ問題解決方法について考え、呼びかけポスターや綿でエコたわしを作成し、エコたわしを各家庭で使用するなど実践した。
- ◇はじめはゴミのことなんて知ってると思っていたけれど、実際にゴミを調べてプラスチックゴミがたくさんあり、生き物が困っていることを知った。これからはゴミ拾いなど自分にできることをやっと思おう。
- ◇ゴミが海を通じて他県に流れ、他県の人と一緒に協力しながらゴミ問題に取り組んでいっているのだと知り、ゴミのことを考えているのは自分たちだけではないという思いを持った。
- ◇宮島の環境をよくしようとしている人が大勢いることに気づけた。自分たちも宮島の自然のためにできることをやろうと思った。

単元名

「SDGs」で廿日市を考えよう

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる広島県や廿日市市における SDGs の取組について知ると共に、自分たちにできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

宮島観光協会

活動の概要

「SDGs」の視点で自分たちの住んでいる廿日市について調査を行い、自分たちでできることを考えることとした。まず、国連が定める持続可能な開発目標「SDGs」とは何かについて調べることから始めた。その後、広島県や廿日市市における SDGs の取組について調査し、まとめ、発表を行った。今後、宮島への現地調査を計画している。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

あなたは、どんな廿日市市に住みたいの？

【SDGs とは何か？】

- ・SDGs の 17 の目標について分担を決めて調査した。

【広島県の取組を調べてみよう】

- ・SDGs に関わって広島県内でどのような取組が行われているかを調べ、班ごとに発表を行った。

【廿日市の取組を調べてみよう】

- ・SDGs に関わって自分たちが住んでいる廿日市ではどのような取組が行われているかを調べ、個人発表を行った。

【宮島で現地調査をしよう】

- ・校外学習の実施が難しく、今後、実施予定

【自分たちにできることをまとめよう】

- ・調査した内容をふまえて、自分たちでできることをレポート形式でまとめた。

年間を通して ICT 機器（Chromeブック）を効果的に活用し、調査、発表等を実施した。

まとめでは紙媒体を使わず、「スライド」や「ドキュメント」といったデジタル形式でまとめた。

情報を整理、分析、まとめ、発表する場について、班ごとに協力して行う場と個人で実施する場の両方を設けた。

児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 紙媒体でレポートをまとめることが苦手な生徒も、デジタルデータだと容易に作成することができていた。
- 年間を通して使用したことで、ICT 機器を使いこなす技能はかなり高まった。
- 活動を通して、広島県や廿日市市に対する興味が深まった。
- ◇事後アンケートで「廿日市市のことが好きですか？」という質問に対して、95%の生徒が好きだと答えており、地元愛が高まったと考えられる。

単元名

廿日市の未来を考える

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

廿日市市の現状や課題を理解し，今後さらによりよい場所にするために必要なことを考える。さらに，持続可能な社会を構築するために，今からでもできることを提案する。

【連携諸機関・人物】

・地域の事業所

活動の概要

廿日市市の現状と課題を理解し，SDGsの視点からどのような活動をすれば持続可能な社会になるのかを考える。SDGsの概念理解を含めて，多くの情報を収集・整理して，自分たちにできる活動を提案する。また，廿日市市の現状を調査して，多くの人に廿日市市のよさを知ってもらうために情報を発信する。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等
- ・単元の導入で「廿日市市長とのふれあいトーク」の発言内容を活用して，先輩たちが廿日市の現状と課題をどのように理解しているか，また何を求めているのかを知る。
- ・SDGsの視点から廿日市市の現状を分析するため，SDGsの概念理解について具体的事例を用いて理解する。また話し合い活動を多く取り入れ，どのような解決策が可能なのかを協議する。
- ・地元の事業所にアンケートを実施して，現在行っているSDGsに関わる取組を理解する。そして，今後さらに続けていけるような活動を考えるために参考にする。
- ・最終的には，学年全体を5グループに分けて（生徒が選択），各教科の学びと関連づけた具体的な提案内容を考える。
 - ①国際交流グループ（台湾の学校との交流を通して，廿日市市の良さを伝える）
 - ②映像グループ（SDGsの取組をアピールするために動画を作成する）
 - ③環境グループ（環境問題に焦点をあて，課題解決ガイドブックを作成する）
 - ④美術グループ（SDGsの活動を促進するためのアピール作品を作成する）
 - ⑤家庭グループ（家庭でできるSDGsの取組をまとめたガイドブックを作成する）
- ・調べ学習や海外の生徒との交流をスムーズに行うために，クロムブックを活用して，情報の収集・整理を行う。

児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 具体的な事例からSDGsの概念を理解することで，自分事としてこれらの活動を理解しようとする姿が見られた。
- 自分の興味のあるグループでの学習を行うことで，主体的に学ぼうとする姿が見られた。
- ◇今回提案した活動などを実際に多くの人に知ってもらうために広報活動も取り入れた。

単元名

「阿品・阿品台の魅力について」 ～ふるさとの魅力をダンスで伝えよう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちが住んでいる町の魅力について知り、みんなに町の魅力を伝えるために自分たちにできることを考え実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・小、中学校
- ・地域の名所、商店など

活動の概要

SDGsについて知り、自分が関心を持った目標について調べ発表した。地域の小学校の児童が総合的な学習で阿品・阿品台について調べ、地域の魅力や課題を調べたプレゼンテーションを見た。コロナ禍で行動が制限される中、中学生としてどうやって地域の魅力を伝えることができるかを考えた。生徒が考える町の魅力的な場所を探索し、その場所を最大限にアピールできるようにメッセージを作り、動画に取り入れた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等
- ・導入では、小学生が作った阿品・阿品台の魅力を伝えるプレゼンテーションを視聴し、中学生としてどうやってふるさとの魅力を伝えられるかを考えた。
- ・タブレットを活用して、阿品・阿品台の魅力的な場所を検索した。
- ・検索させた場所を実際に探索した。
- ・探索する前に、なぜその場所が魅力的な場所なのか班で意見を出し合い予想した。そして、自分たちが実際にその場所を探索してみて、改めてその場所をどうアピールするかを考えた。
- ・探索に出て、出会った地域の人に阿品・阿品台の魅力についてインタビューを行い、地域の魅力について気付くことができた。地域の人のかさを感じることができた。
- ・3つのクラスが収集した情報を比較・分類・分析し、どこを、どのようにアピールするか考え、魅力ある阿品・阿品台のスポットをつないで動画を作成した。
- ・生徒の達成感や満足感、自己有用感を高めるために、文化学習発表会で、他学年にはオンラインで視聴してもらい、保護者には体育館で見てもらった。多くの保護者に好評で、学期末の懇談の待ち時間でも視聴してもらった。

児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- (生徒の感想より) 自分のふるさとの魅力について再発見することができた。また、魅力を多くの人に発信することができるようにがんばった。文化学習発表会で、全学年の生徒や先生、保護者に見てもらい、うれしい言葉や声掛けをたくさん聞くことができて、がんばって良かったと思ったし、自分のふるさとのあるということに感謝した。
- ◇動画をを通して地域をアピールすることができ、生徒の達成感、一体感に繋がった。

単元名

廿日市市について探ろう
「廿日市市地域活性化プロジェクト」

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

観光をテーマに自分たちが暮らす廿日市市の魅力について情報を収集し、まとめ、表現する活動を通して、自分たちの暮らす廿日市市を知り、誇りに思うことができる。

【連携諸機関・人物】

- ・ 厳島神社
- ・ 宮島水族館
- ・ 宮島歴史民俗資料館 他

活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響によって廿日市市への観光客が減っていることを課題とした。特に、廿日市市の観光業が宮島に頼っていることを課題とし、新しい魅力を発見するため宮島以外での観光スポットを調べ、観光客を増やすための観光ルートを作成した。また、実際に宮島に行くことで、宮島が観光客を惹きつける魅力を調査し、作成した観光ルートの再検討を行った。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等

- ・ 導入において、社会科との連携を図り、廿日市市への観光客が減ることで自分たちの生活にどのような影響がでるのかを学ぶことで、自分事として学習に取り組んだ。
- ・ 単元を通して同じメンバーでの班活動をする中で、意見交流などの学び合い活動を円滑に行うことができた。
- ・ 廿日市市の観光スポット調べにおいて、一人一台のタブレット端末を使うことで、すべての生徒が役割をもつことができ、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・ 本単元においては、探求の過程のサイクル（①作成した観光ルートを学年全体へ発表する場を設け、他の班の発表を見たり、他の班からのアドバイスを受けたりすることにより、作成した観光ルートの課題に気づき、再検討を行う。②実際に宮島の観光名所を訪ね、観光客を惹きつける要素を調査することで、作成した観光ルートの課題に気づき、再検討を行う。）を繰り返すことで、主体的に学習に取り組む態度を引き出した。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 作成した観光ルートは、ポスターや演劇形式での発表を通して、わかりやすく伝えることができた。
- 宮島での体験学習を通して、歴史・建造物・景観・サービスなど多くの観光の要素を学習することができた。
- 地域活性化プロジェクトでこれまで知らなかった廿日市市のことを知ることができ、廿日市市に愛着をもつことができた。
- ◇住んでいる町へさらに高い興味・関心をもたせることが難しく、検討が必要である。

単元名

廿日市市を知ろう！ ～周辺地域との比較～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

私たちの住んでいる地域の特徴を、さまざまな分野について知り、地域の良さや課題を知るとともに、みんなが住みやすい街になるために自分たちができることを考えることができる。

【連携諸機関・人物】

FMはつかいち
(倉本さん・岡さん)
歌手(香川さん)
ナガスタ(黒木さん)

活動の概要

第3学年では、今話題になっている廿日市市 PR 動画のように、廿日市市の魅力を発信する学習に取り組む。そのために、まず、第1学年において、廿日市市のさまざまな分野について詳しく知るとともに、実際に廿日市市の魅力を発信している方々の考え等にふれる。この学習を通して、廿日市市についての理解を深めるとともに、自分たちができることやさらに住みやすい町にするためにできることを考えるきっかけとすることを目標に、本単元を設定した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入で、廿日市市の PR 動画及び、「3分で分かる廿日市」を視聴し、生徒の関心を高めた。
- ・廿日市市で活躍されている方々を講師としてお招きし、それぞれの方がどのように地域に貢献されているか、廿日市市をよりよくするためにどのような活動をされているか等について理解を深めることができた。
- ・収集した情報は、タブレットを活用し、それぞれがスライドを作成して発表を行った。その際、FMはつかいちの倉本さんから、プレゼンテーションの工夫についてご指導いただき、相手に伝わりやすいスライド作成のポイントや聞き手をひきつける話し方を学び、表現力を高めることができた。
- ・FMはつかいちに出演し、四季が丘中学校の魅力を発信できた。生徒にとっては、貴重な経験となった。



広島湾七大海の幸

生徒作成のプレゼン資料(スライド)



みんな、「広島湾七大海の幸」って知ってる？ アンケートをとったところ、3分の2の人は、知らないみたい。「広島湾七大海の幸」は廿日市市が面している広島湾で獲れる代表的な魚介類、メバウシ・コイワシ・オニオコゼ・アサリ・クロダイ・カキ・アノゴのことだよ。



児童生徒の姿(○)、振り返り(◇)

- 廿日市市のそれぞれの地域・分野に魅力や課題があることに気づき、今まで以上に廿日市市について理解を深めることができた。
- 表現し発信するためには、理解を深めるだけでなく、表現の仕方に工夫が必要であることを学び、自分らしさを出しながら表現する姿がみられた。
- ◇事後アンケートでは、廿日市市が「好き」から「とても好き」に変わったという生徒もいた。自分の生まれ育ったこの廿日市市に誇りをもてる生徒を育てていきたい。

単元名

自分を知る～地域学習(佐伯を知る)～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

地域調べや地域での活動によって、地域や自分の良さや課題を再発見し、他者と協働しながら探究・解決することを通して、自分の将来の夢や生き方についての考えを深める。

【連携諸機関・人物】

- ・保護者や地域の人々
- ・アーチェリーランド

活動の概要

これまでの学びと保護者・地域の人々へのインタビューから、「もっと地域のことを知り、佐伯のことを発信しよう」という学習課題を発見する。その後、タブレットを活用しながら、地域の魅力をレポートにまとめるとともに、アーチェリーランドでの体験活動を通して考えた、佐伯の魅力と今後の街づくりや生き方について考える。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・学習課題を発見する際に、保護者や地域の人々へのインタビューによって他者の視点に触れ、自分事として捉え、自分たちの気付かなかった良さや課題に気付くことを通して主体的なものとなるよう促した。
- ・一人一台タブレットを活用し、地域の魅力ベスト3をレポートにまとめるとともに、自分たちの暮らす地域についてどのように発信されているか気付く。
- ・地域の魅力として多くの生徒があげた、アーチェリーランドと連携して体験活動を行った。
(森を守る活動, アーチェリー, ツリークライミング)
- ・一人ひとりの学びを、班ごとに共有してポスターをつくり、文化祭で発信した。
- ・タブレットによる調べ学習やレポート作成などの個の学びと、体験活動やポスターづくりにおける班や学級などの集団による学びを、効果的に織り交ぜた。

＜アーチェリーランドでの体験活動＞



＜文化祭での班ポスター＞



児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- ◇佐伯は自然が豊かなことから、自然をアピールすると佐伯が盛り上がると思った。
- ◇自然と人が共存するのはとても難しいと学んだ。どちらも脅かさない方法を自分たちが考え出そうと思った。
- ◇人を大切に、物を大切に、森を大切にすることを学んだ。
- ◇アーチェリーランドは、人と人がつながることができる場所、自然と触れ合える場所、相手を思いやれる心を学べる場所だと思った。
- ◇協力して学ぶことの楽しさと大切さを学んだ。

単元名

大野元気プロジェクト ～地域に貢献しよう～大野の未来を考える

【関連のある SDGs の目標】



全項目
(班ごとで選択)

【単元の目標】

自分たちをとりまく環境に目を向け、地域活性化の提案を発信することができるとともに、課題の解決に向けた探究活動を自ら計画し、推進することができる。

【連携諸機関・人物】

新型コロナウイルスの感染防止のため各諸機関と連携を行わなかった。

活動の概要

SDGsの視点を取り入れ、より切実に、「未来の大野はどんなまちであるべきか」考える。3年間貫く「大野元気プロジェクト」として、まちづくりの視点から未来の大野を考えていき、地域に貢献する態度を育成する。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入では、ICT機器を使って活動内容や発表方法のイメージを持たせることにより、生徒が見通しを持つことができた。
- ・プロジェクトチームは班でそれぞれ「人とのつながり」、「施設」、「特産品」、「自然」、「イベント」、「宣伝」、「生き物」、「安全」、「教育」のテーマをもち、さらにSDGsの目標を選択させ、提案の柱となるようにした。
- ・地域を活性化するための方法を、客観的な事実を根拠に、地域に関する様々な事象を分析し自分の考えを持たせた。
- ・提案資料の作成にはタブレットを使い、スライド作成を行った。収集した情報を元に発信するための資料を作ることができた。
- ・情報収集、動画の活用については技術科「作品の制作・発表」の学習と関連付けた。
- ・自他の良さを生かしながら、協働して課題解決を図ることができるようになった。



児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

- 様々なアイデアが盛り込まれたプレゼンテーションに、ワクワクしながら発表を聞くことができた。
- 他の生徒の発表を評価することで自分自身を振り返ることができた。
- ◇私たちが日々努力をすれば変わることが分かったため、「考える」、「思う」だけでなく行動しようと思う。

単元名

地域とつながる「大野を伝えよう」 『ASAKO プロジェクト』

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

大野の自慢「大野あさり」のよさを地域内外の人々に伝える活動を通して、地域のために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・浜毛保漁協 組合長 山形昇様
- ・大野漁協
- ・大野給食センター
- ・合同会社 TWIYO 大島久典様 他

活動の概要

GI（地理的表示保護制度）に登録されている大野の自慢「大野あさり」について、地域での認知度も低いという調査結果から、課題「大野を伝えよう『ASAKO プロジェクト』」を設定した。「大野あさり」の歴史や環境保護との関わり等について情報収集し、問題解決に向けてグループに分かれ、それぞれ活動計画を立てた。実際には、さまざまな媒体を使った広報活動（CM を製作してコンテストに応募、チラシを製作して地域内外で配布、キーホルダーやしおりを製作して地域で配布）を実施した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入段階で、事前の調べ学習を経て、漁協の組合長との「大野あさり」に関する質疑応答を通し、他地域のあさりにはない「大野あさり」の特異性や生産の歴史、その苦難の道のり等を知ることにより、生徒の関心を高め、自分ごととして課題を設定した。
- ・課題を共有した後に複数のプロジェクトを編成し、生徒が主体的に計画・実行できるよう、興味・関心のあるチームを自ら選択できる学習形態をとった。
- ・「大野あさり」に携わる地域のさまざまな業種の人にインタビューを行うことによって、対話から情報を収集すると同時に、あらたな課題を発見し活動を深めた。
- ・情報の整理や活動の進捗状況の報告、製作物の共同編集など、全員がタブレットを活用することによって、活動を容易に進めることができた。
- ・広報活動を地域内外で展開することによって、応募したCM コンテストでは最優秀賞を獲得するなど、他者からの評価を得、生徒の達成感につなげることができた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 「大野あさり」について他者にわかりやすく伝えようとする中で、主体的に情報を集め、新たな知識も獲得し、自分たちの地域の自慢として誇りに思う気持ちを深めていた。
- 相互批評を繰り返す、他者にわかりやすく伝えることのできる製作物にするため、情報の整理やまとめ方を工夫していた。
- ◇「大野あさり」について知るために、地域の人にインタビューをして、ネットの情報だけではなくほかの詳しい情報やエピソードを聞き、あさりについてさらに関心を高めることができた。
- ◇グループの人と協力してどうやって作ればいろいろな人に「大野あさり」のよさを知ってもらえるか考えながらパンフレットを作ることができた。

令和3年度 「ふるさと学習」に係る取組《廿日市市教育委員会》

RO3 「ふるさと学習」シティプロモーション室との連携等

学校での総合的な学習の時間において、シティプロモーション室と連携し、地域で活躍されている方や企業、市役所職員の方々を講師として招聘し、授業を行いました。

四季が丘中学校3年生



シティプロモーション室の職員から、廿日市の魅力やその発信方法、それに係る財源確保等について話を聞きました。

廿日市のふるさとと納税の返礼品の提案やPR動画の作成等の学習活動に繋げていきました。

大野東中学校3年生



市役所（観光課）職員や社会福祉協議会大野事務所の方から、コロナ禍における廿日市主要産業への影響や環境の変化に伴う市への相談内容等について話を聞きました。

産業、福祉、教育、家庭、地域等における様々な課題を知ることができました。

佐方小学校5年生



令和4年3月22日に、保護者や地域の方に向けた「米フェスティバル」を開催しました。

自分たちで作った米を「ポンじき」にして配布しました。

また、ラベルを工夫したり各クラスの米ブースを設けたりして、佐方オリジナル米の魅力を発信しました。

RO3 「ふるさと学習」発表会

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ステージでの「ふるさと学習発表会」が中止となり、Zoomによるオンライン開催となりました。オンライン発表会の様子は、後日、YouTubeにより廿日市内学校関係者、児童生徒、保護者にのみ限定公開しました。

発表に向けては、キャリア教育デザイナーの大野氏にアドバイスをいただき、ブラッシュアップを行いました。

また、オンライン発表会当日は、松本市長、生田教育長、FMはつかいち倉本局長にもご参加いただき、各校の発表後に講評をいただきました。

その後、はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ市民ホールにおいて、市内小・中学校（発表校を除く）による、「ふるさと学習」の取組についての展示発表を行うとともに、オンライン発表会の録画映像を電子黒板で放映しました。



宮島小学校5年生、中学校1年生

「宮島の自然とともに
～海の生き物から考えよう～」



吉和中学校2年生

「SDGsの視点から吉和の未来を考える」

